

いずみニュースレター

令和5年1月発行 第24号

「いずみ」における組織の活性化

社会福祉法人いずみ監事 鈴木 久弥

皆様におかれましては、新春を清々しい気持ちでお迎えのこととお慶び申し上げます。

本年も昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染症に対して、十分に注意が必要になるかと思いますが、感染の発生を最小限に留めることができたのも法人の努力の賜物と理解しております。

さて、「いずみ」においては、地域福祉の担い手として、福祉サービスの利用者だけでなく、地域に暮らす人びとの生活を支えるため、社会福祉事業に留まらない地域のニーズに応える取り組みを実践していただいております。

事業の継続には、組織の活性化が必要であり、ダーウィンの進化論にもあるとおり、強いもの賢いものではなく、環境に順応したものが生き延びています。複雑な環境に対応するシステムとは、人材育成と人材開発であり、組織の活性化は、ヒトを中心にした組織開発が必要になります。

組織の活性化に特効薬や処方箋はありません。持ち味は人それぞれであり、コミュニケーションを円滑化して、相互理解の関係性を構築することや、知っているという事に謙虚になること、発想の転換をしてコミュニケーションを取り信頼を組織活性化につなげる引き金にしていくことが重要であります。

私達は外の眼はかなり発達していて、自分をとりまく状況やそのなかでのさまざまな関係にも終始目配りをしています。そして、かなり正確な把握もしています。しかし、自分のことは意外とわかっていないのではないのでしょうか。自己理解と他者理解から相互理解にしていくことが必要であります。

長所も短所も生まれは同じという考え方があります。持ち味・個性には二面性があります。人を疑わない(人を信頼できる・騙されやすい)相手の意見を受け入れる(協調的である・影響を受けやすい)自分を信じる(自信がある・傲慢である)あきらめない(ねばり強い・頑固である)考える前に動く(行動が早い・衝動的である)このように良いふう to 働く場合と悪いふう to 働く場合があります。自己洞察・理解と他者理解・受容からお互いを補える関係にしていく必要があります。

組織成立の三要素は、①目的(共通の目的)②協働意欲(貢献しようという意欲)③伝達(コミュニケーション)この三つが揃った時が組織としての成立となります。

結びに、組織の活性化について重要なことは、①コミュニケーションを円滑化し、相互理解の関係性を構築する。②お互いに認め合う。③指導者自身が自己洞察・自己理解を深め信頼に基づくリーダーシップを発揮する。となります。

個性が輝くことにより、組織が活性化されます。



第8回いずみコンサート

令和5年1月6日、法人内関係者で第8回いずみコンサートを行いました。今回は「ロバの音楽座」さんをお招きしました。古楽器や空想楽器の演奏、ダンスなどを鑑賞し楽しい時間を過ごすことができました。

また、今回は初の試みとして「今まで見に行きたかったけど事情によりいずみコンサートに行ったことがない」、という利用者さんも参加できるように平日に開催。会場のキャパシティや感染防止の観点から密とならないよう午前午後の二回公演で行いました。

当日は「ロバの音楽座」さんの演奏で手拍子で一緒に盛り上がりました。

参加された利用者さんからは、「騒がしくない音楽で、ゆったり、ゆっくりできた。」「生で音楽を聴く機会がコロナで減っているから、いろいろな楽器があって楽しめた。」「バグパイプやケーナといった楽器には前から憧れてて、生で聞けてすごかった。」などなど、感想をいただきました。

コロナ禍の中、近年は各事業所で開催してきたコンサートですが、今回は法人全体で開催、一步進んだかな？という気持ちです。来年、また開催できるように頑張っていきたいと思います。最後になりますが、開催にあたりご協力いただいたご家族、職員の皆様ありがとうございました。



(会田)

「コロナ禍で始めていること」

あゆみの家 成人部

成人部では、ここ 2 年ほど行っている恒例の出張イチゴ狩りやぶどう狩りの他に、秋祭り、グループ活動と少しずつではありますが活動を広げています。皆さんで外出ができにくいなか、アイデアを出し合っ



グループ活動の 1 つ、ファームではフリージアを育てています。皆さんで球根を植えて 2 月の開花を楽しみにしています。

秋祭りではヨーヨー風船釣り、射的、たこ焼き、鈴カステラ、かき氷を楽しみました。最後に皆さんで創ったお神輿を担いで祭りを締めくくりました。



ハロウィンレクリエーションではカボチャの飾りを作りました。紙を丸めてカボチャの顔や好きな顔を書いて皆さんで楽しみました。



利用者様と一緒に
にかぼちゃの顔
を書きました。

これからも楽しみにしてください。

(宇佐美)

「ひまわり(児童発達支援)療育の中で行うリハビリの良さ」

ひまわり(児童発達支援)

今年度 5 月に、ひまわりに新しい作業療法士(OT)が赴任し、毎日の療育活動で個別リハビリを充実させています。

療育中のリハビリの良さは遊びの雰囲気の中、子どもがリラックスして行えることです。また毎日OTがいることで、日々の小さな変化、成長にいち早く気付く事ができ細かな対応ができます。保護者、全職員への密でまめな共有を徹底する事で、皆で子供一人一人の成長を見守っています。子どもの成長のサポートをしていく事が児童発達支援事業に求められている大きな役割の一つと考えています。

今後も、リハ職員、保育士、看護師等それぞれの専門分野の職員で連携を取り、より良い療育を目指していきます。



(西島)

「放デイ医療的ケア児に対しても質の良いサービスの提供を」

ひまわり(放課後等デイサービス)

ひまわり放課後等デイサービスは、平成10年に保護者達による自主活動からスタートした事業です。平成28年に重症心身障害児を対象とする放課後等デイサービス事業も開始して医療的ケア児も通える事業所となりました。

医療的ケア児を受け入れ始めた当初は『看護師1名体制で可能な範囲で対応』で、看護師が休んだ場合には利用もお断りしなければならないという形でスタートしました。平成30年にあゆみの家に移転、児童発達支援との多機能型として運営を始めてからは、建物内の協力が得やすくなりました。

通常利用が可能となった後も課題はたくさんあり、他の利用児に対して自宅送迎や入浴支援などサービスの拡充をしていく中、「リスクが高いので対応が難しい」「体制が整わない」等の理由で吸引等が必要な医療的ケア児については、通常利用のサービスしか提供できていませんでした。

医療的ケア児に対してもサービス拡充したいという思いはずっとあり、『体制が整った時のみ』ではあります。昨年度から自宅送迎、今年度は入浴支援を少しずつ行っています。当に小さな一歩ですが、踏み出す事がその後のサービス向上に繋がると信じて出来る事から始めています。

そしてまた一つ、今年12月から介護職員による注入・喀痰吸引を行う為の申請が済み、研修を終えた介護福祉士等が医療的ケアの一部に携われるようになりました。まだ法人内の書類を整えていく必要はありますが、今後介護職員等も医療的ケアに携わる事で対応できる医療的ケア児の人数や活動の幅が広がっていけると思っています。

(小山)



「ウィズコロナの中で、つばさが実践してきたこと」

ライフサポートつばさ

新型コロナウイルスが日本で初感染者が確認されてから約3年。マスクをしながらの生活にも慣れてしまい、マスクを外した時のお互いの顔を忘れてしまいそうなほどですが、つばさでのこの3年は提供するサービスの新たなカタチを模索する3年でもありました。

コロナ禍以前まで行なっていた地域の方々を招いての施設祭り、介護体験実習生の受け入れ、外出活動など軒並み中止となるなど制限がかかった中で、利用者の皆さんにいかにつばさでの時間を楽しく安全に過ごしていただけるかを考えていきました。

感染防止策を講じながら、運動レクやゲームのやり方を工夫したり、屋外で換気が十分なBBQを行ないに青梅へ出掛けたり、遠出せずとも室内でできるブドウ狩りの実施を実現しました。フラダンスのダンサーさんと呼んで披露していただいたり、介護体験実習生の受け入れも今年度より本格的に再開し、学生との触れ合いの場が戻ってきました。

新型コロナウイルスの感染拡大の波はこれからもまだ何度も襲ってくると思われますが、感染防止の基本となる「3密・換気・手洗い等」を徹底しながら、制限のある中でも出来得ることを見出し、活発で多彩な活動を今後も提供していきます。

(塩野)

「保育園交流を再開しました」

あゆみの家 幼児部

新型コロナウイルスの流行後、外出、遠足、地域交流等、様々なことを縮小して療育を行ってきました。基本的な感染症対策を徹底しながら進んできた約3年。少しずつでも以前のような療育に戻していかなければと考えていたところに、長年交流保育でお世話になっているふじみ保育園様より「外遊びなら交流できるのではないか」と再開のお話をいただきました。

交流は6月から再開予定でしたが、コロナ以外の感染症やお子さんの体調などあり、久々に伺えたのは11月になってしまいました。実に3年半ぶりの交流も、保育園のお子さんや先生方が暖かく迎え入れてくれました。少し緊張気味の幼児部のお子さんたちも、すんなりと各クラスに入っていき、いっしょに走ったり、築山に登ったりと、幼児部ではできない体験を楽しんでいました。

今年度の交流予定は、残すところあと2回となってしまいました。子ども同士の関わりは互いに刺激となり心身ともに成長につながります。今後も交流の機会をいただけることに感謝しつつ、子どもたちの成長につながる様々な機会を以前と変わらない形で用意していきたいと思います。

(田中)



「ひだまり休日支援について」

ホームヘルプひだまり

ウィズコロナ、外ではマスクをはずしても大丈夫、この冬はアクティブ、などなどコロナとの向き合い方は色々と言われている昨今ですが、依然として感染者は減らず、ただただ収束を祈るばかりの毎日です。ひだまり休日支援でも、密をさけるため西武線沿線でのお出かけを提案したり、ご家族様とも相談してあゆみの家を利用したりしています。

それでも西武線沿線だけでは物足りない！と、感染対策を強化して、高円寺のケーキ屋さんや神代植物公園、昭和記念公園など少しずつお出かけエリアも元に戻りつつあります。

いつもと違う電車にウキウキニコニコ、利用者さん同士で待ち合わせて、公園をお散歩、大きなソフトクリームをみんなで食べたり、「また〇〇さんを誘ってこのカフェに来ようよ！」なんて楽しそうにお話したり、と利用者さんの心が動く瞬間を感じることができて、こちらまで楽しい気持ちになります。

あゆみの家利用組も負けていません！

なんたって美味しいもの大好きな利用者さん、くいしんぼうヘルパーが揃ってますから、季節ごとにランチやおやつ会を企画しています。いつもと違うメニューで、また新たな好みを発見できたり、テーブルセッティング用にとステキなオーナメントを作ってくれたり、みんなで楽しい時間を過ごしています。

ひだまりカラオケ&ボーリング大会をまた再会できたらいいなと思っております。

(星)

職員ひとこと



初めまして。あゆみの家成人部の永井と申します。
早いもので、成人部で働き始めて4年が経ちました。そんな私が大切にしていることは“初心忘るべからず”です。利用者様の小さな変化にも気付く事ができる支援員でありたいと思っております。
まだまだ未熟で頼りないとは思いますが、成人部を盛り上げていきたいと思しますので、今後も一緒に色んな感情を共有して、楽しく過ごしていきましょう(*^-^*)今後も宜しくお願い致します！

永井 里佳

あゆみの家成人部 4年



私が大切にしている事は、『自分から笑顔で大きな声で挨拶をする』という事です。自分から、率先して挨拶することによって、その後のコミュニケーションが円滑になり、会話のきっかけにもなります。又、自分の心を開いた状態であると伝えることで、沢山のコミュニケーションが生まれ、結果をとして自分自身にも利用者様にも楽しいことが降りかかってくると感じます。楽しい時間を共有させて頂けることに感謝し、今後とも宜しくお願い致します。

竹山 有加

あゆみの家成人部 2年



お子さんと関わる中で大切にしていることは、専門的な視点で評価や取り組みをしつつも、楽しい気持ちを大切に。また「ことば」にこだわらないコミュニケーションを互いに感じ取ることが出来るようにしたいと思っています。

毎日とってもかわいいお子さん達と関わり、楽しく働かせて頂いています。これからも宜しくお願い致します。

奈須 香奈子

ひまわり（児童発達支援）1年



わたしが支援の中で大切にしていることはどなたにも優しい気持ちで関わることです。

利用者が安心して心地よく過ごせるような声掛けや関係づくりを心掛けています。また、利用者の目線になって考え、思いに寄り添って応えていくような支援ができるように努力しています。

社会経験2年目でまだまだ分からないことも多くあり、うまくいかないこともあります。今後よろしくお願いします。

安井 翼

ひまわり（放デイ） 1年



いずみに入職して、はじめて介護職に就きましたが、「気づき」の力を養うことと、コミュニケーションの大切さを感じました。

コミュニケーションの基本は挨拶だと思うので、とにかく明るく、元気な声での挨拶を心がけています。

レクリエーション活動も、まずは自分が楽しんでやらないと、利用者様にも楽しんでいただけないと思い、安全を第一に考えながら、利用者様一人ひとりのペースに合わせて、一緒に楽しめたらと思っています。そして、利用者様の变化に、いち早く対応できるよう、「気づき」の感度を高めながらの支援に努めます。

今後も、向上心を忘れずに、利用者様の心に寄り添った支援を心がけながら、自己のスキルアップとステップアップを目指して精進していく所存です。

原 秀明

ライフサポートつばさ 5年



私が仕事をしている中で大事にしていることは「あいさつ」です。コミュニケーションを取ることが苦手だった私は、福祉の現場に入り、自信がなく戸惑うことも多い中で自分に出来ることは「あいさつをきちんとしよう！！」と心がけてきました。

あいさつをきっかけにコミュニケーションに繋がればと思います。これからも、皆さんと楽しい時間を過ごしたいと思っています。今後よろしくお願いします。

高野 加奈子

ライフサポートつばさ 8年



世界中の子どもたちが一度に笑ったら、空も笑うだろう
ララ海も笑うだろう…という素敵な歌がありますが、通園してくる子どもたちも、幼児部でいっぱい笑顔の思い出を作ってほしいと願っています。

子どもたちを笑顔にするには、まず自分から。笑顔で接していると、難しい顔や興味がないなあというような顔をしている子どもも、不思議なことにそのうちニコニコ顔になってきます。

そんな時、笑顔はお互いの力の源だなと思います。

荒井 智美

あゆみの家幼児部 7年



思い返すと、成人部のパートのころから随分と経ちました。ホームヘルプひだまりの会田です。

中学生のころに参加したボランティアを切っ掛けに、「この道で生きる」と決めて十一年。

右も左も分からなかった頃よりは色々見えるようになってきましたが、まだまだかなあ？

どうすれば「自分らしく地域で生活していけるか？」を考えながら制度や知識を生かして働いております。

會田 美信

ホームヘルプひだまり 18年

ご寄付を賜りました

いつも活動を支えて頂き、本当にありがとうございます。

清水基金様

ひまわり(放課後等デイサービス)に助成を頂き、古くなったリフト車両の入れ替えを行いました。広い車内は大きい車椅子の子どもでも乗りやすく、スムーズな運行ができています。



株式会社メリーチョコレートカンパニー様

ひまわり、あゆみの家幼児部にごクリスマスプレゼントとしてチョコレートのご寄付頂きました。クリスマス会で渡すとみんな笑顔で嬉しそうにしています。



山崎製パン株式会社武蔵野工場様

ひまわり(児童発達支援)にパンのご寄付を頂き、運動会のパン食い競争で使わせていただきました。保護者参加の種目で白熱した試合となり、終わった後はパンは各自持ち帰って美味しく頂きました。



資生堂ジャパン株式会社様

ひまわりに消毒液携帯用とマスクスプレーのご寄付を頂き、お配りさせて頂きました。引き続き感染対策をしながら活動していきたいと思えます。



～編集後記～

皆様お元気ですか？寒い盛りのこのごろです。ウサギのように軽やかに参りたいと思いながら、重いジャンパーとホッカイロが手放せません。夕方はいづらか日が延びてきたでしょうか？ (山下)

発行元 社会福祉法人いずみ
東京都東村山市富士見町 3-3-4
TEL 042-394-1868

※記事内の写真についてはご本人、ご家族のご了承を得たうえで掲載しております。